

令和3年度 総務常任委員会行政視察報告書

1. 視察日

令和3年8月3日（火）

2. 視察先及び視察事項

飛騨市役所 飛騨市古川町本町 2-22

ふるさと寄附と飛騨市ファンクラブ等の関係人口の取組について

神岡鉄道 飛騨市神岡町東雲 1327-2

過疎地域のまちおこし（レールマウンテンバイク）について

3. 参加者

委員長 田中やすひさ

副委員長 田代はつ江

委員 美谷添生 山川直保 蓑島源已 長岡文男

事務局 松山由佳

計7人

4 視察内容

【視察先1】飛騨市役所 ふるさと寄附と飛騨市ファンクラブ等の関係人口の取組について

説明者 飛騨市長 都竹淳也

対応 飛騨市議会議長 澤 史朗

飛騨市企画部部長 谷尻孝之

飛騨市議会事務局 水上時雄 他市職員2名

※参考 飛騨市人口 23,174人（令和3年8月末）、面積 792.5km²、議員数 13人

<概要>

飛騨市では、人口減少における課題解決のポイントが関係人口にあるとし、全国初の楽天との連携による「飛騨市ファンクラブ」の設立や、地域外の人との「関わりしろ」を増やすためのプログラムの実施や飛騨市関係案内所「ヒダスケ」の開設など関係人口増加に向けた取組を展開し、市民と関係人口が共創するまちづくりを推進している。

○ 取組の経緯

飛騨市は人口減少が60年余りにわたり続く「人口減少先進地」であり、都竹市長は人口減少を止めることはできないが、地域の活力低下の影響を補い、地域課題を解決する可能性を秘めた存在が、移住者未満・観光客以上といわれる関係人口にあると捉え、平成28年度に電子マネー「楽天Edy」を活用した「飛騨市ファンクラブ」を設立した。

○ 楽天との連携

都竹市長は県職員時代に楽天と連携し商業振興を手掛けてきたことがあったため、楽天との包括連携協定を締結し、全国で初めて電子マネー「楽天Edy」を活用した飛騨市ファンクラブに取

り組んだ。(楽天との連携内容は、この他、観光、農業、IT 人材の育成など多方面の 10 項目に及ぶ)

○「楽天 Edy」を活用した「飛騨市ファンクラブ」の仕組み

楽天 Edy 機能付きのファンクラブ会員証を発行し、このカードで買い物をすると利用額の 0.1%が飛騨市にふるさと納税される仕組み。飛騨市のファンクラブ会員は、カードを使うことで飛騨市に貢献ができる。

また、会員にはオリジナルの名刺を配布。周囲の人に配布して飛騨市を PR してもらうのが目的だが、名刺をもらった人が市内の協力店舗に持参すれば、割引や粗品進呈などのサービスを受けられる。たくさんの方に PR していただいた会員には、別途特産品の贈呈などで還元している。



飛騨市ファンクラブ会員証
※飛騨市ホームページより

○ 会員獲得の取組

当初会員数が伸びなかったが、若手職員が工夫し YouTube で動画配信を行い、それが全国初の電子マネー付き会員証という話題性との相乗効果を生んで、メディアで取り上げられ注目され会員は増加した。会員証の発行が間に合わず市長も謝罪会見風動画に出演した。

平成 29 年度にサービスを開始したが同年 8 月には 1,000 人の会員数に、平成 30 年 10 月には約 2,550 人、令和 3 年 9 月現在では約 6,200 人の会員数。

○「飛騨市ファンクラブ」以外の関係人口増加の取組

- ・ 限界集落に架空の村を創る「ふるさと種蔵村」
- ・ 楽天、東京大学と連携した関係人口の研究
- ・ 地域の課題、ニーズを広く紹介しマッチングを行う関係案内所「ヒダスケ」の開設 など



都竹飛騨市長による説明



説明を受ける総務常任委員会委員

【視察先2】神岡鉄道 過疎地域のまちおこし（レールマウンテンバイク）について

○ 旧神岡鉄道の概要

飛騨市神岡町の旧神岡鉄道は、鉱山の町神岡を明治から支え続けた大切な鉄道であったが、鉱山事業の縮小やそれに伴う人口減少、また鉱山からの貨物輸送鉄道からトラックへと切り替えられたことにより、2004年に廃線となった。その後、地元の有志らが町のシンボルとして鉄道資産を残そうとアイデアを集結し、レールマウンテンバイク「Gattan Go!!(ガッタンゴー)」が考案された。廃線となった鉄道路線を活かした新たな観光資源、過疎地域のまちおこしとして注目されるほか、全国各地の廃線を抱えた自治体や団体からの視察も受け入れている。



○ 運営主体

NPO 法人神岡・町づくりネットワークがレールマウンテンバイク「Gattan Go!! (ガッタンゴー)」を運営している。平成19年からイベント的な運行をしていたが、周辺の宿泊施設関係者からの要望などにより、平成24年から通年営業を行っている。



○ 活動の主な受賞歴

平成24年度 第11回 日本鉄道賞「蘇ったレール」特別賞 受賞

平成24年度 第1回 スポーツ振興賞「スポーツとまちづくり賞 日本商工会議所奨励賞」受賞

平成25年度 第14回 中部の未来創造大賞「大賞」受賞

平成25年度 第9回 JTB 交流文化賞「最優秀賞」受賞

平成25年度 第31回 地域づくり「総務大臣賞」（団体の部）受賞

平成25年度 飛騨市合併10周年特別功労者表彰

平成28年度 第2回 ジャパンツーリズムアワード 地域マネジメント部門賞

平成28年度 第10回 産業観光まちづくり大賞 金賞

※レールマウンテンバイクホームページより

○ レールマウンテンバイク「Gattan Go!! (ガッタンゴー)」とは

市販のマウンテンバイク2台を鉄道のレール幅に合せた特製のフレームで固定し、マウンテンバイクをこぐと前進する乗り物。2人用と真ん中に補助席のある3人用も有。

まちなかコースと渓谷コースの2種類のコースがあり、まちなかコースは、旧神岡鉄道の奥飛騨温泉口駅からスタートして神岡市街地を眺めながら走る往復5.8km（所要時間約40～50分）のコース。渓谷コースは、渓谷沿いを行くコースで大きな橋や鉄橋がある往復6.6km（所要時間約40～55分）のコース。

5 所感

飛騨市も人口減少が進んでいる地域であるが、人口減少を当然のものとして受け止めてみえる一方、外部の「力」をうまく活用することによってそれに対応していくという姿勢が明確であった。関係人口を、多い順に、①関心人口②交流人口③行動人口の三つに分類しそれぞれに対応したきめ細かな施策が展開されており、その分類や対応した施策は本市の関係人口の施策を考えるにあたり大いに参考になった。

①については、ふるさと納税や飛騨市ファンクラブが対象であるが、市長が目標を設定、公言し、それを職員が工夫をこらしたPRなどを行い、徐々に目標達成に向かっていく過程は1つのドラマのような展開であった。①はゆるやかなつながりであるが、常にコミュニケーションをとれる関係性をつくるという視点は非常に大切であると感じた。またふるさと納税に関しては、ふるさと納税と地域産業の活性化をうまく結びつけている点や、またその額についても本市としても今後十分考えていかねばならないと改めて感じた。

②については、ファンクラブのファンの集いや飛騨市へのツアーなどを行っているが、市長自ら先頭に立って飛騨市のPRに積極的な姿勢がここからも垣間見れた。

③は、地域に実際に入り、活動・行動する方々であるが、地域の課題を活性化の資源とする「ヒダスケ」のような発想の転換は本市でも一部で類似した取組がみられるが、本市でも更に展開していく可能性を感じた。

関係人口は移住定住の入り口ではなく、幅広く関われるという緩やかな仕組みの構築が飛騨市の取組の根幹にあると思う。本市でも外部の力を上手に活用していく事は人口減少下の中で活力を維持するために重要であると改めて感じた。

また、当委員会では今年度のテーマに過疎対策を挙げており、地域づくり「総務大臣賞」を受賞したレールマウンテンバイクガッタンゴーの視察も行った。

神岡鉄道の跡地を有効活用したものであるが夏休みとはいえ、多くの観光客で賑わっており、時代の変化とともに利用されなくなったものを新たな観点から活かしていくという手法は、例えば今後の学校統合や公共施設の跡地利用などにも大切な視点であると感じた。

最後に、都竹市長自ら長時間にわたり説明して下さり、とても有意義な視察となったことを特に記しておきたい。

6 視察経費

視察費	83,760 円（議会事務局職員旅費を含む）
一人平均	13,960 円（委員6名）

以上、視察研修の主な結果について報告いたします。

令和3年9月30日

郡上市議会議長 山川 直保 様

郡上市議会総務常任委員会
委員長 田中 やすひさ